

た		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営				
1. 理念の共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを 支えていくサービスとして、事業所独自の理 念を作り上げている。	運営推進会議を通して地域住民との交流をじっくり模索しているところで、理念は昨 年のままである。	○	平成19年度、約一年間運営推進会議を通して地域住民との交流を模索 した。平成20年度は住み慣れた地域での安心した暮らしを支えるための 事業所としての理念をつくりあげていく予定である。
2	○理念の共有と日々の取組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の 実践に向けて日々取り組んでいる。	職員研修を通して、現在の職員は理解している。 何を大切に利用者に向き合うかなど日々の中で話し合いとしては欠けていると思わ れる。また、新しい職員への意識づけも十分ではなかった。	○	新しい理念を作り上げる過程やできた時点で理念を管理者と職員が理念 を意識しながら、日々、利用者に関わる際に、理念を具体化していけるよ うに取り組んでいきたいと思う
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続け ることを大切にしたい理念を、家族や地域の 人々に理解してもらえるよう取り組んでい る。	運営推進会議を通して地域の方々に伝えている。「流しソーメン」「夏祭り」などの行 事へのお誘い・参加を通して実際にGHを見学している。	○	これからも、運営推進会議を通して、地域への理念の浸透に取り組んで いきたい。
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声 をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえ るような日常的なつきあいができるように努め ている。	ゴミだしの時、近所の方と会うとお互い挨拶をしている。パズルは利用者がレクレ ーションなどで使わせてもらっている。 家で使わなくなったパズルや差し入れを届けにきてくれる。		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員とし て、自治会、老人会、行事等、地域活動に 参加し、地元の人々と交流することに努め ている。	地域住民の一員として、町内会に加入している。 発寒川沿の各町内会全域の出動による一斉清掃に利用者とスタッフが参加協力し た。その後地域の方々とジンギスカンを食べながら交流した。 夏の盆踊りも連日、ゆかたを着て利用者とスタッフが参加し、踊った。		
6	○事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員 の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮 らしに役立つことがないか話し合い、取り組 んでいる。	運営推進会議等で事業所主催の講演会などを提案したが「、町内会でも行っている ので、参加者がいないだろう」と却下。実際には特に行っていない。	○	運営推進会議や町内会との交流を深める中で、地域で求めているものを 把握し、ニーズに応えられるような地域貢献をこれから考えて取り組んでい く。

た		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	サービス評価の意義や目的を全職員に伝えている。 自己評価を全職員で行い、サービスの質の向上に努めている。外部評価の結果は、ミーティングで報告し、改善に向けて具体的な対策の検討や実践につなげるため努力をしている。		形式的な作業にならないよう、常に評価のねらいを理解しながら評価できるよう今後も継続して取り組んでいきたい。
8	○運営推進介護を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	前回の運営推進会議で取り上げられた検討事項や懸案事項について、その経過を報告し合い、一つひとつ積み上げていくようにしている。また、これまでの評価結果を踏まえ、現在取り組んでいる内容についても報告し、意見をもらうようにしている。	○	今後は検討内容によって、幅広い立場の人が参加できるメジャーな会議として理解してもらえるように取り組んでいきたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	札幌市で行う年3回の管理者会議に参加し、札幌市との連携強化を図っている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	研修や個々の勉強(資格取得のための)では理解している職員もいるが、全職員には十分理解されていない。そのため、制度を活用する支援には至っていない。	○	職場の研修会でのテーマとして「成年後見制度」を次年度とりあげ、職員の理解を深めてもらいたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがない要注意を払い、防止に努めている。	虐待を見たり、聞いたりしたときの対応方法について、事業所での体制があいまいである。	○	今後はやってはいけないことを見たり、聞いたりしたときの対応方法を事業所としての対応方法を作成し、全職員に周知徹底できるように取り組みたい。
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	時間をとって丁寧に説明している。特に利用料金や重度化や看取りについての対応、医療連携体制の実際などについては詳しく説明し、同意を得るようにしている。利用者の状態変化により契約解除に至る場合は、家族などに対応方針を相談している。	○	高齢であったり、家族のいない方については親戚の方に説明しているが、親戚もいない方については成年後見制度などを活用していきたい。

た		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	センター方式によるアセスメントを行い、利用者の言葉や態度からその思いを察する努力をし、利用者本位の運営を心がけている。	○	利用者自身が思いや意見を上手に表すことができなくなってきたが、できるだけ本人の意向を探る努力をしていきたい。また、本人の意向は真摯に受け止め主任会議等で話し合い、埋もれないようにしていきたい。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	毎月、家族通信を発行し、担当スタッフより現在の報告と、写真を添付している。また、金銭管理は個人ごとのお小遣い帳を作成し、報告している。	○	本州にいる家族は、頻回にグループホームに来訪できないので、暮らしぶりなどビデオ撮影したものをDVDににして送る予定がある。金銭管理のおこづかい帳については、来訪時見たというサインなど必要か家族会等で検討していきたい。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族会を設け、家族同士の集まりの場で意見を出せるような問いかけをし、何でも言える雰囲気づくりを心がけている。出された意見や情報、要望などは主任会議やミーティングで話し合い、反映させている。	○	入居歴が長くなると、マンネリ化し、意見も少なくなってきた。家族会では職員が席をはずして家族同士で話し合ってもらう時間をとるなど、意見をだしやすい環境をもっと考えていきたい。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	ミーティング、勉強会、個別面談を行い、意見を聞くようにしている。また、日ごろからコミュニケーションを図るよう心がけ、表情や顔色など気にかけるにし、問いかけたり、聞き出したりするようにしている。懇親会を会社負担で年3回実施、職員が意見や提案を話しやすい場づくりに心がけている。運営者、管理者は共に職員の要望や意見を聞くように心がけているが、不満や苦情は言いづらい部分も多いので、十分には把握しきれていない。	○	入居者を決めるときや退所の判断など現場の職員の意見を十分に聴き、活かしている。働く意欲の向上やサービスの質の向上につながるような意見や提案を聴くまでにしていきたい。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	利用者の自由な暮らしをできる限り支えられるよう、必要に応じて、柔軟に職員の配置を考えている。勤務シフト上も無理のないよう、行事のときは人員を増やすなど工夫している。	○	今後は看取り介護など実践する場合、利用者の状況によって必要な支援を柔軟に提供していくためには、管理者が泊まりに入ったり、就寝ケアまで従事するなど柔軟な体制がとれるようにしていきたいと考えている。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	利用者、ご家族への信頼関係を築くためにも、馴染みの職員が対応することが重要と考えており、異動や退職がやむを得ない場合も、その時期や引継ぎの面で最善の努力をしている。基本的には、各ユニットの職員を固定化し、顔馴染みの職員によるケアを心がけている。新しい職員が入る場合も、利用者にきちんと紹介し、利用者からホームのことを教えてもらうような工夫をしている。	○	職員の退職も一時よりは落ち着いているが、年に3～4人は退職する。利用者へのダメージを最少にするための検討を職員全員でしていきたい。

た		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	事業所内では、キャリア別の勉強会をもうけ、人材育成についてなど勢力的に行っている。スキルアップのための外部で行われる研修などにも参加し、学んだことを報告書としてまとめ、他スタッフにもわかるようにしている。	○	職員のニーズや必要性に応じて年間を通して研修内容を決め、事業所主催の研修会は継続していく。事業所外で開催されるいい研修にはなるべく多くの職員（パート職員も）が受講できるように今後も継続していきたい。認知症ケアは日々変化しているため、「これでいい」というのではなく、日常的に「学ぶ姿勢が大事」ということを伝えていきたい。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	いろいろな勉強会や研修会の参加により、同業者との交流があり、情報交換の場があるため、ケアの工夫や改善の参考になっている。		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	休憩室にはエアコン、空気清浄機など設置し、くつろぎやすい環境づくりに取り組んでいる。事業所全体で、事業所全体でなど親睦会を年3回会社負担で実施し、ストレス解消に努めている。個人面接やアンケート調査を行い、職員のストレスや悩みを把握するように努めている。	○	同じ事業所内での親睦会はありますが、他のグループホームとの親睦会はないので、今後は取組んでいきたいと思う。
22	○向上心をもって働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。	運営者は現場に来て、利用者と過ごしたり、職員の業務や悩みを把握している。特に金銭的な支援はないが、資格取得の実務経験がある職員にはスキルアップのため、上級資格取得を勧め、アドバイスを行っている。	○	今年度は体調不良で退職したり、退職した職員が多かったため、今後は健康診断の検査項目の検討していきたい。たとえば○オ以上はがん検診も行うなど。
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	サービスの利用について相談があった時は、必ず本人に会って心身の状態や本人の思いに向き合い、職員が本人に受け入れられるような関係づくりに努めている。	○	今後も初期面接は重要と考え、実施する。利用者、家族との関係づくりが充実したものになるように思いや不安、困っていることを十分受け止めていきたい。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	ご家族が求めているものを理解し、事業所としてはどのような対応ができるか、事前に話し合いをしている。これまでの家族の苦労や今までのサービスの利用状況など、これまでの経緯について、サンター方式などを利用しながら、ゆっくり聞くようにしている。		

た		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	開設当初は、自宅での介護相談もあったが、最近ほとんど入居を前提にした相談なので、グループホーム以外のサービスにつなげるということとは行っていない。	○	相談時の状況により、その時点で何が必要か考えながら対応していきたい。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	本人や家族が事業所を見学してもらうことから始め、行事に参加してもらったり、している。 体験入居で本人・家族の納得の上でサービスを提供している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	職員は認知症の人としての対応だけではなく、お年寄りとしての対応を臨機応変に行っている。会話の中で利用者から「大変だね」など励まされることも多く、支えあいの日々の中で関係をつくり続けている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	利用者の様子や職員の思いをきめ細かく伝えることで、家族と職員の思いが徐々に重なり、本人を支えていくための協力関係が築けることが多くなっている。 職員は家族の思いを共有しながら、本人と一緒に支えるために家族と同じ思いで支援していることを伝えている家族が少ない。	○	「助ける人」と「助けられる人」という関係ではなく、共に本人を支える姿勢で、一緒に考えていける自然な人間関係を目指していきたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	家族の本人への思い、本人の家族への思いを受け止めて、両者の思いが結びつくような働きかけを心掛けている。 本人の日ごろの状態をこまめに報告・相談するとともに、手紙(年賀状など)をご自身で書いてもらうなど関係が途切れないように留意している。来訪時は、ご本人と家族の潤滑油になるように心掛けている。	○	グループホームに入居しても、本人とのつながりを深めていけるよう、暮らしや介護にも家族がもっと関われる場面や機会づくりを行ってきたい。 職員はあくまで裏方で、家族と本人の絆を大切に、家族の役割をうばわないような配慮をしていきたい。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	昔から利用している病院に通院を続けている人や趣味のダンスを続けるためダンスホールにいったり一人ひとりの生活習慣を尊重している。 地域で暮らす馴染みの友人や知人がグループホームに遊びにきたり、継続的な交流ができるよう働きかけている。		

た		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	廊下で車いすの方がいた場合、道を譲り合ったり、会話されている。利用者同士がすごく仲良しだとは言いきれないところはあるものの、ほぼ全員が自然と食卓にあつまり毎日を過ごされているのをみると、支えあい調和がとれていると思う。	○	今後は利用者は「うまく付き合う力」「助け合う力」「かばい合う力」調整力などを発揮できるよう、利用者同士の支えあいを引き出すケアを行っていききたい。
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	サービスの利用が終了された方も行事に招待したり、家族会に出席してもらったり、病院へクリスマスプレゼントを届けたりと継続的な付き合いを行っている。	○	今後もサービス終了＝利用者、家族との関係も終了ではなく、関係性を大切に、できる限り断ち切らない関わりをしていきたい。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	個別ケアを重点に置き、各個人の思い、希望、不安、悲しみを会話や動きによって読み取り、安楽な生活への工夫、改善等できることはないかをカンファレンス・ミーティングなどで話し合い検討を重ねている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	家族の方からは「昔はこういう事をしていた」。「何が好きだった」と情報を得たり、カンファレンス中に昔の暮らしの情報を得たりしている。スタッフ間でも情報の共有をし、本人との会話の中でも話題に出ている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	利用者個々の生活リズムの継続や日々の心身の変化を職員は見逃さないよう注意し、できることへの促し、できないことへのサポートに努め、把握を心がけている。表情をみて暗いときは気晴らしにドライブに誘ったり、風船バレーなどをしてみたりしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	利用者が自分らしく暮らせるよう本人や家族の要望を聞き、事業所外の関係者の意見を含めて課題となる事をスタッフ全員で話し、介護計画の作成に活かしている。家族を交えて話合うことがあまり出来ていない。	○	今後は家族を交えて話し合う場を積極的に作っていききたい。

た		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	介護計画の進行状況、効果などを評価するとともに、職員が記録する利用者の状態変化や状況、家族・本人の要望に応じて見直しを行っている。	○	ケアマネージャーが次年度より二人体制になるため、今後はカンファレンス以外にも安定しているような利用者の場合も月1回程度は介護計画の見直しをしていきたい。
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別にファイルを用意し、食事、水分量、排泄等身体的状況および日々の暮らしの様子や本人の言葉、エピソードなどを記録している。いつでもすべての職員が確認できるようにしており、勤務開始前の確認は義務付けでいる。	○	これまで、モニタリングが十分にできていなかったもので、次年度はケアプランソフトの導入もあり、確実に実施していきたいと思う。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	行っていない。		今後は空き室を利用したショートステイや共有スペースを利用したデイサービスなどグループホームの多機能性を強化していきたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○ 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	利用者が安心して地域での暮らしを続けられるよう、運営推進会議などで町内会の方々と意見交換する機会を設けている。	○	今後は周辺施設への働きかけやボランティアへの協力を検討していきたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	本人の希望や体調に応じて、訪問理美容サービス、訪問歯科診療、訪問マッサージなどを利用してもらっている。 身体状況に応じて、札幌市のおむつサービスを利用している。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	運営推進会議に地域包括支援センターの職員が参加するようになり、これをきっかけに関係が強化された。周辺情報や支援に関する情報交換、協力関係を築いている。 成年後見制度が必要と思われる利用者に、地域包括支援センターとして協力して利用できるように支援している。		

た		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43	○かかりつけ医の受診支援 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	事業所の協力医の他、利用前からのかかりつけ医での医療を受けられるよう、ご家族と協力して通院介助を行ったり、訪問診療に来てもらうケースもあり、複数の医療機関と関係を密に結んでいる。		
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	まずは訪問診療の医師に相談し、必要な場合は専門医等の受診につながるよう医療機関を紹介してくれる。		
45	○看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	看護職員を配置しており、常に利用者の健康管理や状態変化に応じた支援を行えるようにしている。細かな変化も報告し、早めの対応を行っている。 24時間気軽に相談できる体制をとっている。(いない場合は電話による対応)		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院時には、本人への支援方法に関する情報を医療機関に提供し、頻繁に職員が見舞うようにしている。また、家族とも情報交換しながら、回復状況など速やかな退院支援に結びつけている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	終末に対する対応指針を定め、家族・医師・看護師を交えて話し合いを行っている。また、状態の変化があるごとに、家族の気持ちの変化や本人の思いに注意を払い、支援につなげている。	○	グループホームでの看取りを希望している方がいるので、本人や家族の意向、本人にとってどうあったらよいのか、事業所の方針をチームで話し合っていく予定。また、重度化に伴う「意思確認書」などを作成し、記録に残すことも検討していきたい。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	本人の気持ちを大切にしつつ、家族と話し合い利用者が安心して終末期を過ごしていけるよう取り組んでいる。急変した場合は、すぐ対応していただけるよう医療機関とも密に連携を図り、対応している。	○	本人、家族の希望があり、医師の協力が得られれば、事業所としては対応できる最大の支援方法を踏まえて、チームとして全力で取り組んでいく。

た		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
49	○住替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。	新しい住まいでも、これまでの暮らしの継続性が損なわれないように、これまでの生活環境、支援の内容、注意が必要な点について情報提供し、きめ細かい連携を心かけている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。	勉強会やミーティングの折に、職員の意識向上を図るとともに、日々の関わり方を主任が点検し、利用者の誇りやプライバシーを損ねない対応を図っているが、トイレ介助の際、トイレのドアがしっかり閉まっていないことが時々ある。	○	一人ひとりの誇りを尊重し、プライバシーの確保を徹底していくことは、利用者の尊厳と権利を守るための基本であり、必須の事項である。このことを全職員に徹底するよう事業所全体の取り組みとして、次年度は職場研修のテーマにし、改善していきたい。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	フリープランのときには、行きたい所を聞いたり、なるべく本人の希望に合った場所に行くようしている。スタッフと利用者1対1なので、時間的にもゆとりある行動ができる。自分で上手に表現できない方に対しては、こちら側の質問の仕方を代え、反応を出せるようにしている。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	基本的な1日の流れがあって、入浴や理美容、行事があると、本人の過ごしたい希望より、行事の方が優先している。 職員の都合によるスケジュールに利用者の生活を合わせているところもある。	○	業務のスケジュールに利用者の生活をあわせるのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日どのように過ごしたいか、希望にそって支援できるよう、工夫して取り組んでいきたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	朝の更衣は、本人の意向で決めており、職員は見守りや支援が必要な時に手伝うようにしている。しかし、自己決定しにくい利用者には、職員と一緒に考えて、鏡を見ながら本人の気持ちにそった支援を心かけている。	○	今後は軽い化粧療法なども取り入れていきたい。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。	フリー献立の日を設けている。午前中、利用者みんなで食べたいメニューを出し合って、材料も考えて、利用者と職員で買出しに出かける。一緒に調理して、盛り付けなど一連の流れを利用者とともにを行い、楽しい雰囲気です食事をしている。	○	フリー献立の日を増やしていきたい。

た		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	職員は一人ひとりの嗜好品を理解しており、本人の様子や時間をみながら、それらを楽しめるように支援している。 お酒に関しては、慢性疾患の方が多いので、医師と相談してノンアルコールビールを入浴後や夕食後、行事のときなどに楽しめるようにしている。	○	利用者の体調を考慮して希望に添え、楽しめるよう支援していきたい。
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	自力排泄の難しい人には薬の使用に注意し、夜間は良眠できるよう日中排便できるよう配慮したり、時間ごとに誘導し、排尿できるよう促している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	入浴時間は午前・午後どちらが好きか、温度は暑めかぬるめが好きかなど、利用者の好みに合わせて声かけしている。職員と利用者が1対1で関わる時間なので、コミュニケーションをより大切にしながら支援している。 時々大型銭湯や温泉に行くこともある。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	なるべく、日中の活動を促し、生活リズムを整えるよう努めている。また、一人ひとりの体調や表情、希望などを考慮して、ゆっくり休息がとれるように支援している。 夕方から穏やかで安心した時間の過ごし方にチームで取り組み、就寝に向けてリズムが安定するよう工夫している。寝付けないときには、添い寝したり、ホットミルクをのんだりしている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	得意分野で一人ひとりの力を発揮してもらえるよう、お願いできそうな仕事を頼み、感謝の言葉を伝えるようにしている。たとえば、昔会社社長の方には、行事の際、「挨拶」をお願いしている。	○	利用者が張り合いや喜びのある日々を過ごすことによって「してあげる介護」から「本人が生きていくことへの支援」とケアのあり方の気づきになるので、利用者の活力を引き出せるような取り組みを心がけていきたい。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	自分の財布からお金を出すことで社会性の維持につなげており、少額を手元にもっている。 家族よりお金を預かり、事業所で管理している人でも、外出時や喫茶店のお金などは自分で払えるよう、利用者用の小銭入れを用意している。		

た		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	天気、本人の気分や希望に応じて、季節を肌で感じてもらい、心身の活性につながるよう日常的に散歩、買い物あるいはドライブ等に出かけている。 今年度、ウエルキャブ付きの車を購入し、重度も方も気軽に外出できるようになった。	○	今年度は初めて、さくらんぼ狩りに出かけた。一人ひとりが外出を楽しめる支援に取り組んでいきたい。 重度の利用者にとっての外出は負担になるのではないかという意見もあり、チームとして意見交換をしていく予定。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	利用者のふるさに行ったことはない。できれば、利用者と家族、職員で定山溪の温泉に1泊旅行を実現できるように取り組んでいきたい。 ふるさと訪問は行ったことがない。	○	出かけられる機会をつくり、実現するための方策を検討し、支援につなげている。
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	毎年、年賀状を出すための支援を行っている。利用者の希望に応じて日常的に電話や手紙を出せるように支援している。	○	今後も大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるよう取り組んでいきたい。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	ご家族も親の家を訪れるような気軽で来やすい雰囲気づくりを心がけている。訪問時間などは定めておらず、仕事帰りやご家族の都合のいい時間帯に、いつでも訪ねて来ていただけるような配慮をしている。	○	職員はいつもあわただしく忙しそうにせず、いつも笑顔で対応できるよう徹底していきたい。
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束によって利用者が受ける身体的・精神的弊害について理解し、拘束のないケアを行っている。	○	ミーティングや日々の申し送り時などで、その日のケアを振り返り、自覚しない身体拘束が行われていないか、主任を中心に点検するようにしていきたい。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	かぎをかけられ自由に外に出られないことについて利用者個々の立場に立って考えることが不十分で、チャイムやセンサーに頼りがちになっている。 職員を増やすなど職員体制を強化したが、人数が多くても「誰かが見てるだろう・・・」ということ見守りが不十分であった。3回くらい知らないうちに出ていってしまうことがあった。	○	徘徊する利用者があるので、近所の人にも理解を求め、見守り、声かけや連絡をしてもらえるような地域との連携やネットワークづくりの推進に取り組んでいきたい。

た		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67	○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	入浴やトイレ時は他者に見えないよう気を配っている。見守りも直視せず、利用者が不快に思わないよう視線をそらすなどの対応をしている。	○	見守りやすさを優先するあまり、プライバシーの配慮に欠けるような設えや対応がなされていないか、時々チェックする必要があると思われる。次年度の事計画に盛り込みたい。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	過去に洗剤を飲んだ利用者がいたので、保管・管理は厳重にしている。洗剤や石鹸・包丁などは見える場所には置かず、収納できるところに置いている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	日々のヒアリハットを記録し、職員に回覧し、共有認識を図っている。万が一の事故が発生した場合には事故報告書を作成し、事故原因の今後の予防対策について検討し、家族への謝罪と説明・報告を行っている。	○	一人ひとりの状態から予測される危険をもっと検討し、事故を未然に防ぐための工夫をケアプランに盛り込むようにする。
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	事業所合同による勉強会を行い、緊急時の応急救護に関する対応についてシュミレーションを交えて行っている。	○	年1回は研修会で応急手当の実践を体験できるように事業計画に盛り込む予定である。夜勤時の緊急対応についてマニュアルも整備していきたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	消防署の協力を経て避難訓練、避難経路の確認、消化器の使い方などの訓練を年1回行っている。災害を想定した訓練は行っていない。	○	事業所だけの訓練ではなく、地域住民の参加、協力を得られるよう町内会とも連携を図り、理解を深めてもらうよう運営推進会議等で検討していく。
72	○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	利用者一人ひとりに起こりうるリスクについて職員間では検討するが、家族に対して詳細には説明していない。		一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を家族と今後話し合っていく。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				

た		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	体調や些細な表情の変化もみのがさないよう早期発見に取り組んでいる。変化など気づいたことがあれば、直ぐに管理者に報告するとともに職員間で共有し、対応にあたっている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	だいたいの副作用や効果は理解できていると思うが、すべてをくわしく理解するまでにいたっていない。	○	勉強会を行い、薬についての基礎知識を学ぶ機会も必要かと思われるため、次年度の研修計画に盛り込む予定である。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	自力排便の難しい利用者に対しての対応に注意している。繊維質の多い食品や水分量の増加目指しているが、毎日となると困難な場合もある。現在ではできる限り水分量を多めに摂るため、飲み物の味を変えるなどの工夫に力を入れている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	食後の歯磨きの声かけを行い、一人ひとりの力に応じて職員が見守ったり、介助を行っている。就寝前はポリデントによる義歯の洗浄を行っている。口腔ケアの重要性を、事業所内の研修で理解し、肺炎を予防するきちんとした技術を身につけるようにしている。	○	今後も口腔ケアの重要性を全職員に理解してもらうため、次年度の研修会内容に盛り込む予定である。
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	水分摂取量、食事量は細かく個人記録、日誌に記入し、水分量は1日1000ml基準に提供、援助している。	○	来年度も定期的に管理栄養士の専門的アドバイスをもらう予定である。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	利用者及び家族に同意いただき、職員ともにインフルエンザ予防接種を受けている。	○	事業所内でおこりうる感染症マニュアルをリニューアルし、全職員で学習して、予防対策に努めたい。

た		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	食器布きん、台フキン、まな板等は熱湯と漂白剤による殺菌をない毎食後行っている。熱を通した食品でも常温で2時間以上のものは処分している。	○	新鮮で安全な食材の使用や台所の衛生管理方法は職員の常識にゆだねられているので、今後は研修会やマニュアル作成も検討していく。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関先に、夏は植木鉢を置き、華やかで親しみやすく、冬は除雪をこまめに行い、周囲の家々にも馴染むような工夫を行っている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	トイレには造花を飾ったり、玄関には生け花、季節ごとの飾りを工夫している。夜間明るすぎないよう足元ランプを使用している。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	食卓いすの他に、一人掛け、三人掛けソファ、置きベンチを置き、気軽に腰かけられる。食卓イスも食事時以外は自由にすわり、利用者同士が自然と隣り合って座り、会話をされている。	○	1階については一人で過ごせる居場所がないため、家具の配置などを工夫し、一人の居場所作りを考えていく。
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	なじみのものや好みのものがある。ベッド上からでも好きな動物のカレンダーが目につくような所に貼り付けたり、のれんをつけたりと、家らしさに近づけるための工夫はしている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	空気の入れ換えや温度調節について、職員は常に意識している。利用者のいないときに空気の入れ替えなど適宜行っている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				

た		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	利用者の状態にあわせて、手すりや浴室、トイレ、廊下などの居住環境が適しているかを見直し、安全確保と自立への配慮をしている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	トイレや居室の場所がわかりやすいように大きな文字での表記をしている。		
87	○建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	庭に野菜やお花を植え、利用者と共に水やりや収穫を行っている。夏には流しソーメンや夏祭りを行い、季節を感じられるよう活用できている。		

Ⅴ. サービスの成果に関する項目		
項目		取り組みの成果
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2／3くらい ③利用者の1／3くらい ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2／3くらい ③利用者の1／3くらい ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2／3くらい ③利用者の1／3くらい ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2／3くらい ③利用者の1／3くらい ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2／3くらい ③利用者の1／3くらい ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2／3くらい ③利用者の1／3くらい ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	①ほぼ全ての家族 ②家族の2／3くらい ③家族の1／3くらい ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

Ⅴ. サービスの成果に関する項目		
項目		取り組みの成果
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き生きと働けている	①ほぼ全ての職員が ②職員の2／3くらいが ③職員の1／3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2／3くらいが ③利用者の1／3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2／3くらいが ③家族等の1／3くらいが ④ほとんどいない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

（日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載）
フリープランといって利用者と職員でその方の行きたい所に1日かけてゆっくり出かけることを日常的に行っている。グループホームの中では見られない新しい発見などがある。
さとらんどの市民農園を借りて、畑で野菜づくりを行っている。畑おこしから、草取り、収穫祭、片付けと春から秋まで利用者とともに仕事がある。